

NF回路設計

組織再編 第2の成長へ

新事業創出でHDにR&D機能

エヌエフ回路設計ブロックは、10月1日に持ち株会社制に移行する。電子計測制御、電子デバイス、電源システム、応用システムの各事業会社と事業管理会社「エヌエフホールディングス（HD）」に分割。HDがR&D（研究開発）の機能を持って次世代の新事業を創出し、「第2の成長」を目指す。



新事業創出で意気込む高橋会長

組織再編は、各社の「自律と協調」により、既存事業の強じん化と新規事業の創出を促進するのが目的だ。

既存4事業は「エヌエフ回路設計ブロック」が承継。グループは、計測制御デバイス、電源パワー制御、環境エネルギーの主要3事業に校正・修理を合わせた計4分野で展開する。

取締役会長に就く高橋常夫氏（現エヌエフ回路設計ブロック会長）は、投資家が近年、SDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・企業統治）を重んじる企業に資金を振り向ける傾向が強まっているとした上で、「今のエヌエフ回路は成長路線の事業領域になっていない」と話す。

ただ、2月に伊藤忠商事との合併で設立したNFプロッサムテクノロジーズは、家庭用蓄電システム事業で成果を上げ、環境エネルギー関連での実績は既につくっている。それでも、エヌエフ回路が手がける電源や計測事業が、投資家にとって「オールドな事業」と見られることもあるという。

高橋会長は計測と制御というキー技術を生かし、従来のマーケットはつかんだまま、再編を機として「第2の成長」を目指すという。

10月から、グループ各社は自律的な事業に専念する一方、HDは管理マネジメントによって各社の経営の方向性を示し、財務体質の強化などでサポートしていく。

併せて、培った計測制御技術を生かして、さらなる成長に向けた新規事業を生み出すため、HD内に「事業戦略本部R&D事業室」を設置。高橋会長は、その狙いを「HDがSDGsなどの全地球的なニーズや先端科学技術の動向を把握し、次世代の新事業をインキュベートするため」と説明する。

既に米国のスタートアップとの協業を開始しており、磁場強度が通常の約1千分の1の弱磁場MRIやリンパ浮腫・体組成の計測などに同社の微小信号増幅技術、インピーダンス計測技術を提供。ライフサイエンス関連の事業創出に取り組んでいる。こうした将来の成長分野での新興企業との協業はHDが担うことになる。

量子コンピュータは、将来の成長領域としてグループが重視する分野。微弱な電流を取り出す超電導素子保持部や、その電流を増幅させる低ノイズ信号増幅アンプは研究機関に採用されている。10月に千葉市美浜区で初開催の幕張メッセで初開催する科学技術の発展へ貢献すること、企業価値を高めていく考えだ。

「10月1日に千葉市美浜区で初開催の幕張メッセで初開催する科学技術の発展へ貢献すること、企業価値を高めていく考えだ。」